

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2292100159		
法人名	有限会社サンセイ		
事業所名	グループホームいこいの家北山		
所在地	富士宮市北山4777-1		
自己評価作成日	令和5年	11月30日	評価結果市町村受理日 令和6年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 1月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初と変わらず「いこいの家北山が我が家の様に」という思いを念頭に入居者様とご家族様、職員が信頼関係を築き共に生活している。
サンセイの理念「豊生・共生・明生」の元、入所者様、ご家族様…職員と関わる全ての方が安心、安全な生活を過ごして頂けるよう、努めています。日々の生活の中で身体状況や精神面などでも小さな変化に気づき早急な対応に繋げていける様、寄り添う事を大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度より同事業所の前主任が管理者に着任している。看護師資格を持つ管理者は、利用者全員の健康管理を行いながら、事業所全体の把握に努めている。日常において職員の様子に目を配り、思いや要望を聞き取り、助言やアドバイスをを行い利用者の支援や業務に反映させている。職員の意見により、昨年度から業務の流れを全て1時間前倒ししている。結果として、夜間業務の負担軽減や職員の気持ちや時間に余裕が生まれ、業務全体に好影響を与えている。敷地内に隣接する同法人の小規模多機能型居宅介護施設と連携体制があり、施設管理者の協力も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サンセイの理念をベースにし、ホーム内でも目標を掲げ日々取り組む様になっている。	今年度の事業所目標「得意を見つけ分かち合う」は、職員のスキルアップに繋げる思いが含まれている。目標は、職員全員の話し合いで決めており、協調し合う支援が実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり地域の方との交流が現状できていない。隣接する施設の方やご近所の方と挨拶を交わす程度の関わりになっている。	閑静な地区であるため、日常的な交流は難しいが、率先して挨拶を行うなど気持ちの良い交流を心がけている。近隣住民より、新鮮な野菜やサツマイモ、お菓子などのお裾分けを受けている。	地域との協力体制を確固たるものにするため、良好な関係性の構築に努めることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各施設の管理者が、救命救急の講習を受けたので地域の避難訓練等の要望があれば行える体制を整えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎の運営推進会議を開催、事前の連絡でご家族様や地域の方から意見や要望などを伺い行っているが、コロナの感染拡大防止の為、書面開催としており、近況や状況の報告のみになっている。	議事録には、事業所の運営状況、利用者の生活概要、介護方針、地域交流の状況、個別ケアの課題、職員研修の実施状況、事故や苦情の報告に至るまで記載している。地域関係各所や家族全員に議事録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、協力関係や情報交換を図っている。事前の連絡で意見、要望等も伺っているが、コロナの影響で書面開催とはなり報告のみの形となっている。	市担当課や地域包括支援センターに運営推進会議開催の事前連絡を行い、議事録を送付している。感染症の予防法や利用者の活動の様子などの確認に対して、事業所は丁寧に回答している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を引き続き掲げ、各職員が意識し取り組んでいます。	法人全体の管理者会で委員会を実施しており、内容はスタッフ会議で報告している。介護サポート研修のカリキュラムで、「身体拘束防止の介護ケア」について職員全員が学んでいる。研修等の実施により、職員の意識付けにつながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	15か条に掲げている「じぶんがされたら嫌なことはいらない」を徹底して介護するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利を侵害しない様に配慮している。日常生活自立支援事業についても、知識を深め対応出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、解約や改定について、ご家族との話し合い、説明の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年もコロナの影響にて書面開催だった為、事前の連絡での意見、要望を伺い、こちらからは報告、連絡をこまめにする様に心掛けていた。	事業所に利用料を持参する際に、家族に利用者の様子を伝え意見や要望を聞いている。訪問当日には、家族の相談を受ける予定が入っていた。職員の細やかな気配りに対して、多くの家族から感謝の声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の場や日常業務において申し送りをを行うとともに、共有シート、iPadにて意識の統一を図っている。(年2回の面談)	年2回の個人面談は管理者が行うが、課長が同席する場合もある。面談では、目標の進捗や達成状況の確認、昨年度の評価を行っている。不満や要望を聞き取り、解決に努め丁寧な対応を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に、自己評価表を記入して頂き、管理者は職員との面談する機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で、職員育成のプログラムを用意し、常にスキルアップやモチベーションアップを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会に参加し、研修会や交流会を通して他事業所との交流に取り組んでいます。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際、アセスメントやご家族様に生活歴等の話を聞き、少しでもご意見、ご要望を把握するようにしています。ご本人様からも話を聞き、気持ちを汲み取る様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご要望があればご家族様と面談し、施設の見学を兼ねて現在の状況やご要望を伺っています。 その後も常時相談に応じ、信頼関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやご家族様からのお話、病院からのサマリー等の情報提供を基に、状態を観察しサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを重視し、家事や掃除等、その方が出来る事を見つけ一緒に頂く様にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や個人的な日用品等の用意はご家族様にして頂き、面会時や定期的なお便りを通じて様子を伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも常に面会の受け入れをしています。コロナの影響にて時間制限、マスクの着用はお願いしています。年賀状を作成しご家族様に送付しています。	面会は、検温等を行い事務所で45分程度実施している。感染症対策を継続しているため、事業所内の行事に家族等を招待するには至っていないが、その分内容にこだわり、利用者同士の良好な関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの状況、状態を職員が把握し、状況に応じて対応している。 お互いに良い関係を保てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。 ご家族様からの問合せ等にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からお話を伺い、本人本位の支援が出来る様に努めている。 ご本人様にも話を聞き、思いを汲み取る様にしている。	スタッフ会議で3～4人ずつ定期ケアカンファレンスを行い、3か月毎に確認している。筆談で意思疎通を図っている利用者とは、日頃から筆談でコミュニケーションを取り、文字を読んで言葉を理解してもらうことで思いの把握に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様に馴染みの暮らし方や生活状況を伺っている。 居室に馴染みの物を持ち込み、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のそれぞれの過ごし方や状況をケア日誌 (iPad)に記録し現状把握に努めている。 職員間でも情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様と話し、ご意見、ご意向を確認している。日々の共有シートに記載し、それらを介護計画に反映させています。	利用者のサービス内容は職員全員で意見を出し合い、ケアマネジャーがモニタリングを実施している。介護計画の見直しは、状態の変化に伴い随時実施している。必要に応じて医師に確認を行い、本人(または家族)の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個々の様子や状況を記録し、共有シート (iPad)を活用し情報を共有しながらケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況や認知症の症状を把握し、臨機応変に対応できるようにしています。 ご家族様の要望にも柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の中に野菜を収穫しホームに届けに来て下さる方がいらっしゃる。 自家発電機を設置したので地域防災の拠点になれる様、もっと地域との繋がりをもちたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者様とご家族様の意向を重視している。基本的には受診はご家族様にして頂いています。必要に応じ、職員が同行対応する事もあります。	緊急時の迅速な対応に備えて、利用者全員がかかりつけ医を主治医として定期往診を受けている。今まで通院していた利用者に関しては、家族に理由を説明して同意を得て変更している。受診する場合には、受診提供書で情報交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を中心に体調、健康管理をさせて頂いています。同一敷地内の小多機に所属している看護職とも連携を図り、主治医への相談等の対応をしています。サンセイ独自の訪問看護師(週1回)とも連携が図れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には病院側に必要な情報提供をする様努めています。 退院時には状態や生活上の注意点等の指示をもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明をし、意向の確認書を用意しています。重度化、終末期を迎えるにあたり再度の意向確認、看取りの承諾書を頂きます。協力医、主治医との連携をとり、チームケアに取り組むよう努めます。	看護師である管理者の指示により、医療と介護の両面において、本人や家族、また、職員にも安心感を与えスムーズな看取り支援が行われている。看取り期においては、特別な措置として、面会等の対応は本人と家族の要望に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響にて中々研修参加は難しいが、その都度の対応は医療者から細かく指示を頂き対応し、応急処置や初期対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施しています。 結果等は会議等で発表し、職員で検討しています。	事業所はハザードマップの災害対象地域からは外れている。貯水タンクと自家発電の設備があり、備蓄品も5日分用意している。定期的に夜間想定訓練を取り入れている。	運営推進会議の議事録などで訓練の実施状況や設備、備蓄に関する情報を家族に伝えることが望ましい。貯水タンクや自家発電装置などの設備点検や使用訓練を定期的の実施することが期待される。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、敬意を持ちプライバシーの保護に気を配っています。SNSや新聞(月1お便り)掲載にあたり入居時に、ご家族様から同意書を頂いています。	利用者の呼称は、さん付けとしている。利用者の役割であっても、「お願いしてやっていた」尊重の声掛けに努めている。トイレの前には「空室」や「使用中」のプレートを掛けて、プライバシーと羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が普段から気軽にご自身の気持ちや思い、希望を話せる様な環境、人間関係に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間割はありますが入居者様のペースに合わせ生活できるように支援しています。個々の希望を重視し対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回髪をカットして頂き、爪や髭もこまめに整容しています。洋服も入浴の際など、可能な限りご本人様の意向を汲む様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りで家庭的な料理を提供させて頂いています。職員も介助をしながら会話を楽しんでいます。(コロナ禍から感染防止の為職員と一緒に食べる事は控えています)	食事に関する個別対応はスタッフ会議で周知し、内容を細かく記録し実践している。食事やおやつは全て手作りで、おかずを多めにしている。甘味を好む利用者が多いため、午前のお茶は甘い紅茶を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、1日の水分量を把握し、ケア日誌(iPad)に記録しています。献立も記録し、栄養が偏らない様、工夫に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、夕食後は義歯を外して洗浄液に漬けて置いています。月2回、訪問歯科による口腔ケアも行っており、口腔内の状態等を見て頂き、把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムをiPadの入力にて把握し、個々に合わせたトイレ誘導や声掛け、また排便周期も把握し、主治医指示のもと下剤にて排便コントロールを行っている。	高齢化に伴い自立度は徐々に低下しているが、職員は変わらぬ意識で自立支援を継続している。失禁の際にはさっとパット交換を行い、汚れてしまっても気にしないように「大丈夫」と声を掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量、運動等を考慮し可能な限り自然な排泄を促しています。水分補給時砂糖ではなくオリゴ糖を使用したり乳製品を取り入れたりしています。トイレには腹圧を掛け易くする為に足台も用意してあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日を設けさせて頂き、週に2回は入浴できる様にしています。状況に応じ、随時対応しています。完全個浴にて対応しています。	介護度の高い利用者の入浴介助は、隣接する同法人施設の機械浴を借りて、同施設職員のサポートを受けることで負担が軽減している。お湯は一人ひとり交換して、ヒートショックに配慮して暖房を調節している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全ての入居者が自由に休息したり就寝されています。状況や状態に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々のファイル、専用ファイルに薬情を保管し職員が閲覧、把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を活かし出来る事はして頂く。家事手伝いも一緒にお願いしています。その方の得意な事、趣味等を取り入れたレクで気分転換もして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブに出掛けたり(数名ずつ)散歩や日向ぼっこします。入居者様がご家族様と自由に外出、外泊する事もできます(現状、コロナ禍になってからはご家族様との外出は皆無です)	下半身の筋力低下などで足が動きにくい人は、無理な行動をしないように注意している。お天気の日には洗濯物を干したり、玄関先に出て外気浴をしたりしている。管理者は、「利用者全員で一緒に出かけたい」と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は基本的には金銭を所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にご家族様に年賀状を送って頂いています。ご本人様からご希望があれば電話のやり取りができる体制はできています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日施設内を清掃し、清潔な環境を整えています。気温等に配慮し、季節に合わせ空調管理し快適に過ごせるようにしています。また、感染防止の為に1～2時間毎で換気を行っています。	フロアには、利用者それぞれにお気に入りの場所がある。季節飾りは、節分の貼り絵が作成中であった。洗濯物を畳む人、包帯を1日4本巻く人などは、役割として自ら行っている。管理者はエプロンの明るい色で、雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に座席は決まっていますが入居者様の状況や状態に合わせて席を替えています。ソファも配置替える事もあり自由に座って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に備え付けの洋服ダンスを用意してありますが必要に応じてご自宅から使い慣れた家具を配置して頂いています。基本的には衣替えはご家族様にお願いしています。(コロナ禍からは衣類のお預かりをし、職員が対応)	朝夕の更衣は個々にできることを行い、職員は見守りながら手を添えている。リネン類の洗濯や布団干しは、毎日1人分を行い、清潔保持に努めている。各居室には、貼り絵バージョンの絵馬が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前に「空室」「使用中」の札を掛けトイレを使用する際に変えて頂いています。フロア内は極力不要な物は置かない様にし転倒予防に努めています。		